

特集：2007年度日本数学会出版賞受賞者のことば

荒井秀男氏

出版賞の受賞のお礼にかえて

このたび、日本数学会の出版賞を頂きたいへん光栄に存じます。有難うございました。

1976年刊行の『岩波講座 基礎数学』(全24巻)は、1932年刊行の『岩波講座 数学』(全30巻)以来44年ぶりの数学の講座です。戦後、岩波書店では1957年に『岩波講座 現代応用数学』(全15巻)を刊行、また『位相解析』、『確率論』、『代数函数論』などの入ったシリーズを刊行しましたが(私は途中で引継ぐ)、その中の何点かは予告をしておきながら脱稿の目処が立たず中止せざるをえなかったものがあります。

『岩波講座 基礎数学』ではその轍を踏まないように慎重に進めました。詳細は省きますが、計画から完結の1981年まで8年近くかかりました。小平先生には何回もご相談に上がっています。ですから最終巻が出たときは先生とブランデーで祝杯をあげました。計画段階で、先生が「戦前の講座が分冊形式であったのはよかったし、勉強しやすかった」と言われたとき、それに負けないものを作るという意気込みを感じました。この講座は完結後二度も重版をしました。さらにこの講座の中からセレクトして基礎数学選書として単行本化したものもあります。私にとって忘れられない仕事でした。

単行本では『解析概論第3版』、『集合位相入門』などの入門的教科書、また『連続群論上、下』(翻訳)、『作用素環の構造』など何冊もの専門書が思い出されます。

上記のような教科書・専門書だけではなく、算数、数学を再び勉強したいという読者からの要望に応じて『算数をパズルふうに』、『数学が見えてくる』、『数学読本』全6巻などを出しましたが、それらは先生方にお目にかかって雑談の中から生まれたものです。またVIDEO版『幾何への誘い』は新しい試みでした。

教科書や専門書以外にも上記のような出版物に携わることが出来ましたことはたいへん幸せでした。また、目先のことだけにとらわれず自由に仕事が出来たことは有難いことであつたと思います。こういう気風は残しておきたいものです。

荒井秀男(元 岩波書店編集部)